

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾福沢研究センター
Publication year	2024
Jtitle	近代日本研究 (Journal of modern Japanese studies). Vol.40, (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10005325-20230000-0224

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

執筆者紹介（掲載順）

瀬戸口龍一 専修大学大学史資料室室長

辻岡 健志 宮内庁書陵部図書課
宮内公文書館文書研究官

蔭木 達也

研谷 紀夫 関西大学総合情報学部教授

牛見 真博 大島商船高等専門学校教授

山梨 淳

編集後記

二〇二三年は、関東大震災からちょうど百年にあたるので、今年度の『近代日本研究』では、関東大震災をテーマに特集を組み、瀬戸口龍一氏と辻岡健志氏から優れた論稿をご寄稿していただいた。両氏に心より御礼を申し上げる。そして、編集が追い込みに入った二〇二四年元旦に、能登半島で最大震度七を観測する強い地震が発生し、北陸地方が大きな「震災」を被った。関東大震災でも、極めて多くの人命が失われたが、今回の震災で亡くなられた皆様のご冥福と、被害を受けた方々のご回復を心から祈りたい。

この百年間、日本は、数年おきに大きな地震に見舞われており、この元旦の地震には、「震災」とどのように向き合えばよいかを改めて実感させられた。地震そのものを起こさないようにするのは難しいが、それに付随して生じた津波や火災でも、多くの人命が失われてきたことは、これまでの歴史が教えるところである。「防災」にこだわらず、むしろ二次被害をいかに少なくするか（減災）に、行政のみでなく、我々自身も努めることが求められると感じた。

さて、公募論文では、多くの投稿を頂戴し、査読の結果、蔭木達也氏、研谷紀夫氏、牛見真博氏、山梨淳氏の各氏の論考が掲載されるに至った。論説が二本、研究ノートが二本となったが、それぞれに丁寧な論証が加えられた好論である。そして巻末には、福沢諭吉関係の新資料の紹介を掲載した。次巻は、二〇二五年二月に刊行する予定である。意欲的な論説、研究ノートなどの投稿を期待する。